

5月9日 ゲスト卓話



国際ロータリー第 2770 地区 卓話者バンク

国際ロータリー第 2770 地区 2012-2013 年度地区幹事

小林 玖仁男

●今日は『運のつぼ』でやりたいと思います。

アフアメーション、願えば必ず叶うというアメリカの成功理論です。

これを身に付けている方はたくさんいて、田中作次さんはこのアフアメーションの世界的な権威です。今さら私のような若輩が偉そうに話すのは僭越ですが、お話しをします。

方法はたった2 つだけです。努力は要りません。

○「顕在意識・やりたい(I WILL)」と「潜在意識・できる (I CAN)」をつねに整えておく。強いのは自分をひっぱるのは潜在意識です。

綱渡りの話。英語のおばあちゃんの話。東京タワーの現場監督31歳の話

○未来の成功を現在形でしっかり書き書いておく。完成させておく。そして話しまくる。

○佐渡裕（ゆたか）さんの話。小学校の卒業文集に「ベルリン・フィルの指揮者になる」と書いており、2011年5月のベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の定期公演で実現。

○アンジェラ・アキさん話。大学卒業後、そのままワシントンで就職して歌手を目指すことになった。昼間はオフィスで秘書として働き、夜は9時から12時までバーや

ライブハウスで歌うという二重生活が続いたが、次第にその生活に疑問を持ち、覚悟を決めた彼女は仕事をやめた。アルバイトの傍ら、クラブやライブハウスに出演し、デモテープの作成に務め日本に送った。2003年2月、自作の曲がヤクルトのCMソングに採用される。この楽曲提供がきっかけとなり、歌手デビューを志して26歳で日本に帰国。あちこち売り込みに回ったが、年齢が足かせとなり、とりあってくれるところは無かった。しかし、2003年9月27日に椎名林檎の日本武道館でのライブを見て、サラ・マクラクランのライブを見た時の確信を思い出し、『自分も3年後の2006年までにこの舞台に立つ』という目標を立て、それを壁に貼った。当時はまだメーカーとの契約もなかったが、自分を奮い立たせ動いて頑張ると、その3年3カ月後の2006年12月26日に実際に武道館ライブを成功させた。

代表作は「手紙～拝啓 15の君へ～」 若い日の自分への励ましの手紙。

○つまり未来へと時空をとんで考える力があるといい。シャーマン系の人がいい。

○私の話。室礼でこういう本を書きたい。書いた。

10年で雛の第一人者になる。NHKが迎えに来る。

○RI 理事の小沢さんの話/17人の指名委員の内、10票取ればいい。今ならいける。8人の候補を振り落とし、決戦投票の大演説。

①「やりたい」と「できる」を整える。

②強固な未来へのイメージ、現実形でのイメージ。それがいちばん大事なんです。

●そうすれば運命は勝手に動いて行きます。

○田中さんのDVDも勝手に頭でできていた。あとはアミをはって面白い言い回しを手に入れるのを待つだけと言う状態。坂の上の雲をゲット。小沢理事の演説をゲット

③根拠のない自信。やりたいと思っても、できるという自信がなければ出来ません。これがなかなか持てないのです。子供の方が持っています。大人になると自分がどれほどか分かってしまい、出来ないとう念が入ってしまうのです。

④そして与件でやる。与えられた条件の中で、工夫をすることです。ないからできないというのは人のせいです。人のせいにしてはダメということ。時間がない。金がない。人がいない。やり方がわからない。こう言えば確かにそうで、ここで終わる。逆境を楽しむくらいの方がいいわけです。